

【復活のトロパリ 第1調】

きゆう うせえ いしゆよ、イウデヤのひとはかを
救世主 ひとつなんぢのいさぎよきみを
ふじて、へいそつなんぢのいさぎよきみを
封卒爾潔
まもるとき、なんぢはみつかめにふくか
守時爾三日目復活
して、せかいにいのちをたまえり。
世界生命賜
ゆえにてんぐんはなんぢいのちをほどこすの
故天軍爾生命施
しゆによべり、ハリストスよ、こうえいは
主呼
なんぢのふくかつにき歸し、こおうえいはなんぢ
爾復活歸
のくににき歸す、ひとりひとをいつくしむ
國歸
しゆよ、こうえいはなんぢのおもんばかりに
主光榮
き歸す。

【復活のコンダク 第1調】

こうえいはちちとことせいしんにき歸す、
 光榮父子と聖神に歸す、
 しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう
 主宰爾は神因光
 えいのうちにはかよりふくかつし、せ
 荣中墓より復活、世人
 かいをもともにふくかつせしめたまえり。
 界偕復活しめたまえり。
 ひとのせいいはなんぢをかみとしてほめう
 人性爾を神として讃歌
 たい、しはほろぼされ、アダムはたのし
 死滅樂
 み、エヴァはいまなわめよりとかれ
 今縛釋
 てよろこびてよぶ、ハリストスよ、なんぢ
 觀呼爾
 はしゅうじんにふくかつをたもうしゅなり。
 衆人に復活をたもうしゅなり。

【 税吏とファリセイの主日のコンダク 第3調】

いまあもいつもよよおに、アミン。
 今何時もよよ世世に、アミン。

われらつみなるものはぜいりのたんそくをしゅ
 我等罪者税吏歎息主
 にささげて、しゅさいたるものにつかん。
 捧主宰者就
 けだしかれはしゅうじんのすくいをのぞおみ、
 蓋彼衆人救望
 ことごとくのつうかいするものに
 悉痛悔者
 ゆるしをたもおう。ちちとどうむげんなるかみ
 故賜父同無限神
 にして、われらのためにじんた人體
 我等爲人體
 たればなあり。

司祭) (黙誦: 聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
 ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と
 なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
 ねがものちえめいごあたつみおこなものすそのすくいためつうかい
 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔
 を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
 る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者と
 なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
 もつわれらのぞわれらおよじゆうじゆうつみゆるわたましいからだ
 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と

せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる

しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ
生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

けだしわ かみ なんぢ せい われらこうえい なんぢちち こ せいしん けん いま いつ よよ
司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世

に、



【聖三祝文】

A musical score for the Holy Trinity Prayer (Holy Trinity Hymn). The score is written in six staves, each with a treble clef and a key signature of one flat. The lyrics are written in Japanese, with some words in bold. The music consists of eighth and sixteenth note patterns. The lyrics are:

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖 神 聖 勇毅 聖
じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常 生 者 我 等 憐
よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖 神 聖 勇毅 聖
なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常 生 者 我 等 憐
めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖 神 聖 勇毅
せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖 常 生 者 我 等 憐
れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮 父子と聖神
にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸 今 何時 世世

せいなるじょうせいのものよ、われら等をあわ
聖常生者
れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖
き、せいなるじょうせいのものよ、われら等を
毅聖常生者
あわれめよ。
あわれ
憐

司祭) 黙誦: 主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、)

【提綱 主日第1調】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅよ、われらなんちをたのむがごとく、
主我等爾頼
なんちのあわれみをわれらにたれたま
爾憐
え。

誦經) 義人よ、主の爲に喜べ、讃榮するは義者に適う、

しゅ よ 、 われら なんぢを たのむ がごとく、
 主 我 等 爾 賴 如
 な なんぢの あわれ みを われらに たれ たま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

誦經) しゅ われら なんぢ たの ごと
主よ、我等爾を頼むが如く、

な なんぢの あわれ みを われらに たれ たま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

【 使徒經 (アポストロス) 296 端 ティモフェイ後書3章10~15節 】

司祭) 睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがティモフェイに達する後書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 子ティモフェイよ、爾は我が教訓、品行、意志、信仰、寛容、仁愛、忍耐、我が

アンティオキヤ、イコニヤ、リストラに在りて遇いし所の窘逐、及び苦難に於て、我に從

えり、此の窘逐は我之を忍び、主は我を悉く其中より救えり。凡そ敬虔を以て、

ハリストスイイスに在りて生を度らんと欲する者は、皆窘逐せられん。惡しき人、及び

ひとあざむもの、ますますあくすすひとまどみづからまどしかなんぢまな

人を欺く者は、益悪に進みて、人を惑わし、自も惑わされん。然れども爾は學

びし所の、及び爾に託せられし所に居れ、爾誰より學びしかを知ればなり。且爾は

いとけなき幼より聖書を知る、即善く爾に、ハリストスイイスに於ける信に由りて、救を

え ちえ あた もの
得しむる智慧を與うる者なり。

(比較用 口語訳) あなたは、わたしの教、歩み、こころざし、信仰、寛容、愛、忍耐、それから、わたしがアンテオケ、イコニオム、ルステラで受けた数々の迫害、苦難に、よくも続いてくれた。そのひどい迫害にわたしは耐えてきたが、主はそれらいっさいのことから、救い出して下さったのである。いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする者は、みな、迫害を受ける。悪人と詐欺師とは人を惑わし人に惑わされて、悪から悪へと落ちていく。しかし、あなたは、自分が学んで確信しているところに、いつもとどまっているさい。あなたは、それをだれから学んだか知っており、また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。

【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) なんぢ へいあん
爾 に 平 安 、

誦經) なんぢ しん
爾 の 神 に も 、

司祭) えいち
睿 智 、

誦經) アリルイヤ、



アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) ねが わ ため あだ かえ われ しよみん したが かみ さんしょう
願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讃頌せられん、



アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

誦經) おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ
大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世世に
垂るる者よ、我爾の名に歌わん、

アリルイヤ、アリルイヤ、
アリルイヤ。

司祭) 黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん
 ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん
 の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を
 おぞ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ
 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所
 おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ
 を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、
 なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしづん
 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし
 いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ
 て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

【福音經(エヴァンゲリオン) ルカ福音書89端 18章10~14節】

司祭) えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん
 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、

しゆよ、こうえいはなんぢにき歸し、こうえい
 主 光 荣 爾
 はなんぢにき歸す。
 爾

司祭) 謹みて聽くべし、主は左の譬を設けて曰えり、二人祈禱せん爲に殿に登れり、一は
 ファリセイ、一は税吏なり。ファリセイ立ちて、己の衷に斯く禱れり、神よ、我爾に感
 謝す我他人の残酷、不義、姦淫なる如く、或は此の税吏の如くならざるを以てなり。

われひとなぬか ふたたびものいみ およ う ところ じゅうぶん いつ ささ ぜいり とお た
我一七日に、二次齋し、凡そ得る所の十分の一を獻ぐと。税吏は遠く立ちて、
 敢て目を擧げて天を仰がず、乃膺を拊ちて曰えり、神よ、我罪人を憐めと。我爾
 らつこひとかひとぎ いえ かえ けだしおよ みづか たか もの
 等に語ぐ、此の人は彼の人よりは義とせられて、家に歸れり。蓋凡そ自ら高くする者は
 卑くせられ、自ら卑くする者は高くせられん。

(比較用 口語訳) 「ふたりの人が祈るために宮に上った。そのひとりはパリサイ人であり、もうひとりは取税人であった。パリサイ人は立って、ひとりでこう祈った、『神よ、わたしはほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。わたしは一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています』。ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください』と。あなたがたに言っておく。神に義とされて自分の家に帰ったのは、この取税人であって、あのパリサイ人ではなかった。おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」。

しゅよ、こうえいはなんちにき歸し、こうえい
 主光榮爾
 はなんちにき歸す。
 爾

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ